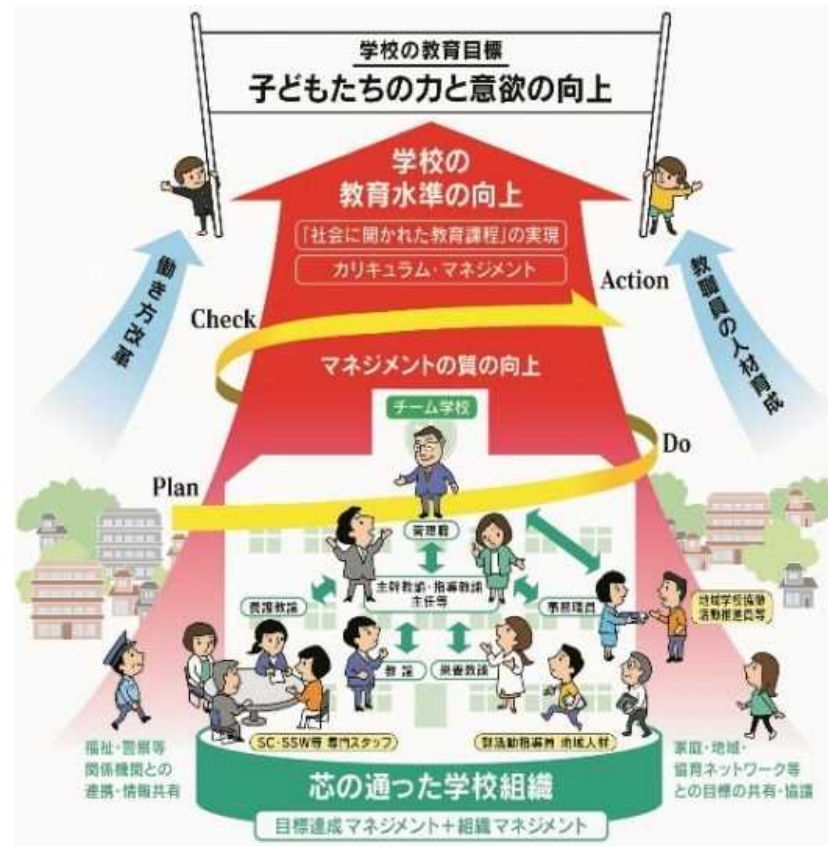


# 「芯の通った学校組織」推進プラン 第3ステージ 実践等事例集

## 〈コロナ禍において得られた新たな知見等〉



令和5年1月  
大分県教育委員会



# 1. ICTの利点を活用した「芯」の推進・更なる深化

- ① ICT活用による学校・家庭・地域の協働の実践
- ②時間的・空間的制約を超えた地域人材活用
- ③学校・県境・国境を超えた交流や成果共有を通じた授業改善
- ④Withコロナでも実施できる効果的な体力向上
- ⑤ICTを活用した「つながり」の場の確保
- ⑥会議・研修の整理・精選（「リアル」×「デジタル」の最適な組合せ）

# 2. 「当たり前」の見直しや目的・ねらいの再検討 による働き方改革の加速

- ①学校行事の整理・明確化
- ②地域の力の結集
- ③公開授業・合同研究授業等のオンライン化
- ④会議・研修の整理・精選（「リアル」×「デジタル」の最適な組合せ）
- ⑤各種システムを活用した業務効率化

# 1. ICTの利点を活用した「芯」の推進・更なる深化

# 1. ①ICT活用による学校・家庭・地域の協働の実践

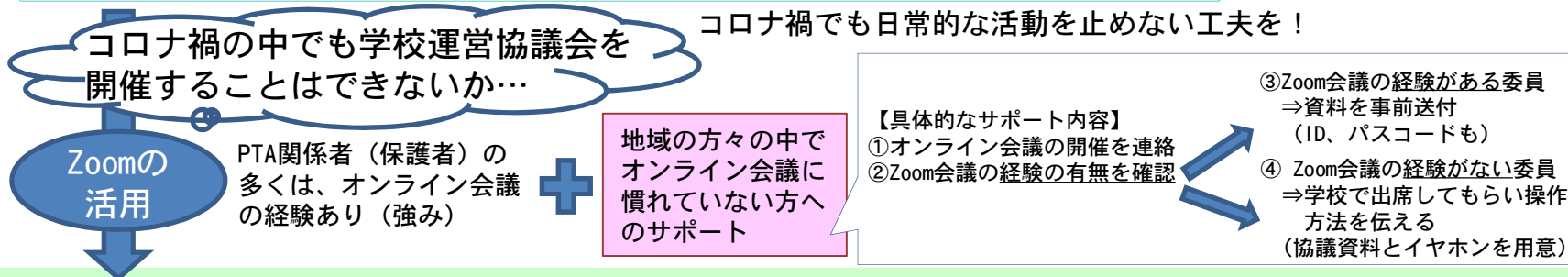
## 由布市立由布川小学校（児童数431名）

- コロナ禍でも学校運営協議会を継続して開催する可能性を探り、Zoomを活用することで、ハイブリッドでの対面開催を実現することができた。
- オンライン会議等を進めるICT活用のスキルを、自校だけでなく他の学校の諸活動（PTA常任委員会、学習活動のライブ配信等）の活性化につなげている。

### 背景

R3：新型コロナウイルスの感染拡大  
→学校の諸活動がストップ、学校運営協議会も書面開催が続く…

### 解決方法



### 取組

①

R3末（2月）Zoomによる学校運営協議会（オンライン会議）の実施（1回目）

※紙資料の事前配付

### 取組

②

R4（8月）Zoomによる学校運営協議会（オンライン会議）の実施（2回目）

《画面共有機能の活用》  
※資料等の理解度の向上、学校側の負担軽減

☆本取組（オンライン会議）  
から言えそうなこと

- オンライン会議でも学校運営協議会を十分に機能させることができる。
- オンライン会議は、意見を出し合う、集約する、方向性を共有するなど十分可能である。
- Zoomを活用することで、出席の仕方（直接、オンライン）を選択することが可能となる。



オンライン会議を経験した学校運営協議会委員の声

- とても良い経験になった。（自分が年配なので）委員をしていなければ、絶対に経験することはなかった。
- 今、学校が目指していることを実感することができた（ICT活用等）。

今後の取組

他の学校の諸活動（PTA常任委員会、学習活動のライブ配信等）の活性化を検討



# 1. ②時間的・空間的制約を超えた地域人材活用

## 各教科等におけるICTを活用した授業づくり・交流の推進

佐伯市立直川小学校 (児童数 44名)

- 取組① 各教科等の目標や特質に応じた1人1台端末の活用授業
- 取組② 遠隔交流授業の推進

【目的】相手意識・目的意識をもった表現活動の充実による表現力の向上

### 取組①

#### R4.1学期 各教科等における計画

教科	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
国語	教科書を読んで読み取った内容を自分の言葉で表現する。 ・学年、学期、ひらがなのフリガナを付けて書く。 ・NLP(for school)の「読書の楽しさ」を見る。	漢字をアプリで練習する。 ・「早くに読しよよう」をロイロで書く。 ・「生活用語」を電子辞書で調べ、授業で発表する。 ・タブレットで「読書の楽しさ」を表現する。	「早くに読しよよう」をロイロで書く。 ・「生活用語」を電子辞書で調べ、授業で発表する。 ・タブレットで「読書の楽しさ」を表現する。	「早くに読しよよう」をロイロで書く。 ・「生活用語」を電子辞書で調べ、授業で発表する。 ・タブレットで「読書の楽しさ」を表現する。	「早くに読しよよう」をロイロで書く。 ・「生活用語」を電子辞書で調べ、授業で発表する。 ・タブレットで「読書の楽しさ」を表現する。	「早くに読しよよう」をロイロで書く。 ・「生活用語」を電子辞書で調べ、授業で発表する。 ・タブレットで「読書の楽しさ」を表現する。	「早くに読しよよう」をロイロで書く。 ・「生活用語」を電子辞書で調べ、授業で発表する。 ・タブレットで「読書の楽しさ」を表現する。
算数	・算数の楽しさを伝える。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。	・タブレットで「算数の楽しさ」を表現する。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。	・タブレットで「算数の楽しさ」を表現する。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。	・タブレットで「算数の楽しさ」を表現する。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。	・タブレットで「算数の楽しさ」を表現する。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。	・タブレットで「算数の楽しさ」を表現する。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。	・タブレットで「算数の楽しさ」を表現する。 ・算数で学ぶ楽しさを伝える。
社会	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。	・「社会で働く人」をロイロで書く。 ・「社会で働く人」をロイロで書く。
理科	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。	・「科学の楽しさ」を伝える。 ・「科学の楽しさ」を伝える。
音楽	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。	・「音楽の楽しさ」を伝える。 ・「音楽の楽しさ」を伝える。
図工	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。	・「図工の楽しさ」を伝える。 ・「図工の楽しさ」を伝える。
家庭科	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。	・「家庭科の楽しさ」を伝える。 ・「家庭科の楽しさ」を伝える。
体育	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。	・「体育の楽しさ」を伝える。 ・「体育の楽しさ」を伝える。
道徳	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。	・「道徳の楽しさ」を伝える。 ・「道徳の楽しさ」を伝える。
外国語	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。	・「外国語の楽しさ」を伝える。 ・「外国語の楽しさ」を伝える。
生活科	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。	・「生活科の楽しさ」を伝える。 ・「生活科の楽しさ」を伝える。
総合	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。	・「総合の楽しさ」を伝える。 ・「総合の楽しさ」を伝える。

学校として育成を目指す資質・能力や、各教科等の特質を踏まえた端末活用の計画を立てている

#### R4.1学期 校内研修及び実践計画

月	日	曜	研修及び実践内容
4	20	水	ICT アンケート、ICT 活用可能な単元の選り出し、授業書・人権レポート発表者決定、iPadの使い方ルール・共有ドライブの活用 (iPad 活用関連の資料)・グッツ・タイピングアプリ等についての説明 (道野校長)
4	27	水	今年度の研究の方向性、アンケート集計結果、ICT 活用の実態と課題の交流、ICT 活用授業一覧、学習アプリの確認、情報モラル
5	11	水	新大分スタンダードの確認、単元構想計画の立て方・全体・学年部会
5	18	水	全児童・職員にタッチペン、ヘッドフォン購入 (運動会練習)
5	25	水	ICT 研修①ICT の活用方法について・電子黒板の使い方、情報モラル・リテラシー、Zoom の使い方 佐野 ICT 支援員派遣①
5	27	金	児童向け「iPad を学ぶ会」(講師：道野校長)
5	30	月	PTA 総務部主催 保護者向け「iPad を学ぶ会」開催 (講師：佐野 ICT 支援員、道野校長)
6	1	水	学校一家庭のオンラインテスト、ICT 研修② ICT 活用研修の還元 (講師：道野校長)
6	7	火	3・4 年大分県立芸術緑丘高等学校との遠隔交流 (授業者：出納教諭)
6	8	火	全国 STEAM キッズ「地域を盛り上げるぞ」チームプロジェクト発表 5 年複数校遠隔交流
6	8	水	ICT 研修③ ICT 活用研修の還元続き (講師：廣者教諭)
6	15	水	学年部会研修 (ロイノート・エルゴートの授業での活用方法)
6	22	水	全国 STEAM キッズ「育てるチーム」プロジェクト参加 1, 2 年複数校遠隔交流
6	22	水	小中高英語研究員 1・2 年英語 授業者：百諒教諭
6	29	水	ICT 研修④ 緑丘高校遠隔交流の報告、プログラミング Viscuit、プログラ ICT 支援員会
6	4	月	5 年沖縄県宮古市立西辺小学校との遠隔交流① (授業者：川崎教諭)
6	6	水	ICT 研修⑤ 各学年活用状況の報告 ICT 支援員②
7	12	水	【R4.2学期の遠隔交流・見学】
7	14	金	○キッコーマン醤油会社と交流
7	20	金	○本匠小学校6・5・1年と交流
7	27	金	○直川苑との交流
8	3	金	○5年生ダイハツ自動車工場の遠隔見学
8	8	金	○6年生長崎市立銭座小学校と交流
8	17	金	○5年生北海道小樽市立塩谷小学校と交流
8	23	金	○3・4年生明治小学校と交流
8	31	金	○長崎市立銭座小、山都町立矢部小との交流
8	31	金	○NISSIN工場見学、コカ・コーラ工場見学(遠隔)

- 【R4.2学期の遠隔交流・見学】
- キッコーマン醤油会社と交流
  - 本匠小学校6・5・1年と交流
  - 直川苑との交流
  - 5年生ダイハツ自動車工場の遠隔見学
  - 6年生長崎市立銭座小学校と交流
  - 5年生北海道小樽市立塩谷小学校と交流
  - 3・4年生明治小学校と交流
  - 長崎市立銭座小、山都町立矢部小との交流
  - NISSIN工場見学、コカ・コーラ工場見学(遠隔)

### 取組②

・大分県立芸術緑丘高等学校の生徒と交流



・全国版STEAMキッズプロジェクトへの参加



・沖縄県宮古市立西辺小学校との交流



### ◎具体的な成果

ICT活用した授業づくりの研究 (遠隔交流授業) の推進により

- ◆「iPadで情報を集めて調べ、整理してまとめ、それをもとに発表している。」児童の肯定的回答 97.7%
- ◆児童の興味関心、感動が生まれ、子ども一人ひとりの学びに向かう力の向上
- ◆教員の研修意欲・実践意欲の向上

# 1. ③学校・県境・国境を超えた交流や成果共有を通じた授業改善

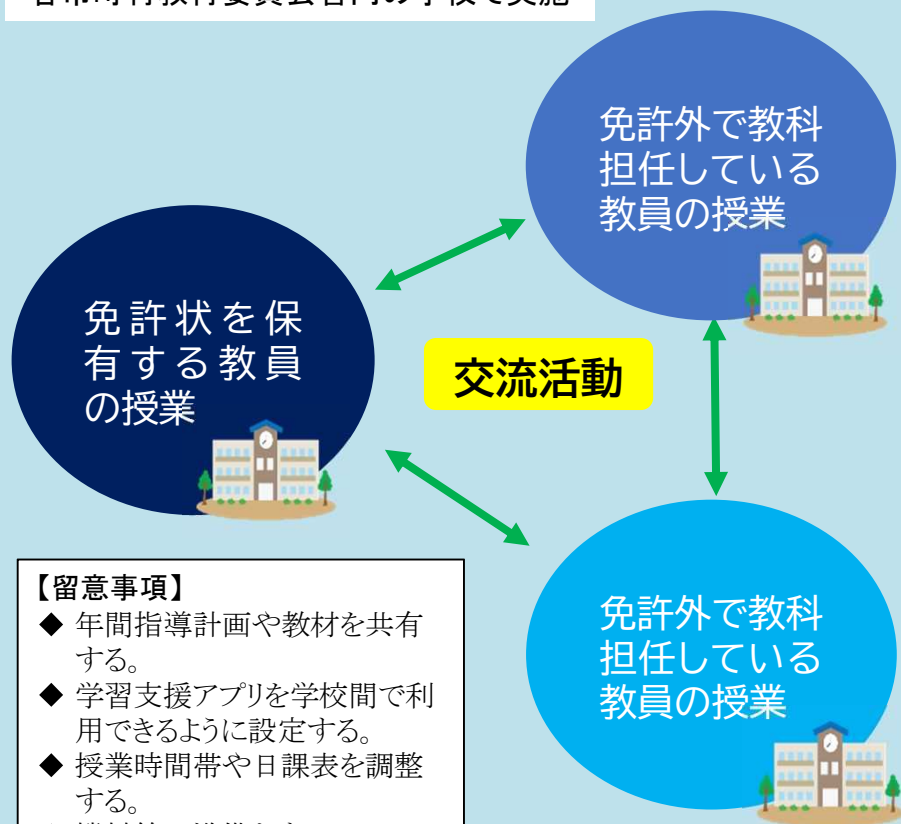
取組

免許状を保有する教員とつないだ遠隔合同授業

## 遠隔合同授業のイメージ

免許外教科担任の授業において、当該教科の免許状を保有する教員の授業をつなぐことで、免許外教科担任の負担を軽減しながら、より専門性の高い授業を実施する。

各市町村教育委員会管内の学校で実施



### 【留意事項】

- ◆ 年間指導計画や教材を共有する。
- ◆ 学習支援アプリを学校間で利用できるように設定する。
- ◆ 授業時間帯や日課表を調整する。
- ◆ 機材等の準備をする。  
(端末、スクリーン、カメラ、マイク、スピーカ等)

## 事例

北海道幌延町立問寒別中学校は小規模校であるため、複数の教科で免許外教科担任による指導が行われている。そこで社会科については、年間を通じて全ての授業を遠隔合同授業で実施している。

日常的に遠隔授業を実施するため、社会科の免許を有している教員が授業の計画や全体進行を担当し、特殊な授業方法をとらず、**普段通りの授業を心がけることで、教員の負担を減らし、継続的な遠隔授業を実現**した。

※遠隔教育システム活用ガイドブック第3版(文部科学省)より



### ICTの利活用

共同編集可能な学習支援ソフトを活用して、学校間で考えを共有

## 効果（メリット）

- 小規模校の児童生徒の学びを広げることができる。
- 遠隔合同授業を実施することにより、免許外教科担任のいる学校であっても、専門性の高い授業を実施することができる。
- 免許外教科担任の授業力向上につながる。(OJT)

# 1. ③学校・県境・国境を超えた交流や成果共有を通じた授業改善

将来、グローバル人材として活躍するための英語力の素地の育成を目指した取組(英語科)

## 背景

◆学習指導要領が示すもの

「身近な話題について伝え合う」

- ・発信するための語彙の習得
- ・話す、書く言語活動を取り入れた授業
- ・話す、書く力を評価するパフォーマンステストの実施

・ALT等との交流によるコミュニケーション疑似体験の創出

◆新型コロナウイルス感染症拡大

➔ 教育活動に様々な制約が発生

外国人との交流  
(対面による言語活動が困難に)

ICTの活用

オンライン上で教室と世界とがつながる場面を設定し英語によるコミュニケーション活動で発信力を身につける

### 取組例① オンライン・スピーキング・レッスン

県立高校2年生対象

生徒各自の端末で、県立高校に所属する他校のALTと1対1(または複数)での英語によるコミュニケーション活動

※ALTは勤務地から移動することなくオンライン上で対応

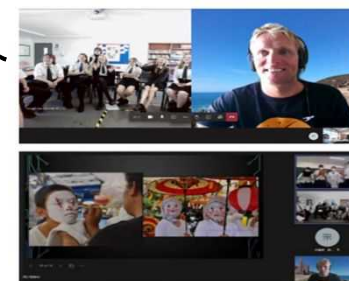


### 取組例② 英国との教育交流

国東高校(オンライン)

リアルタイムのオンライン交流によりお互いの地域や文化、学校生活を紹介するプレゼンを実施し、プレゼン後に互いに質疑応答

※交流校(宇宙港を共通に持つ地域) コーンウォール州(英国) Treviglas Academy10年生(14~15才)



<期待される効果>

習得した知識及び技能を活用した授業展開 / 生徒の英語学習の意欲向上



# 1. ③学校・県境・国境を超えた交流や成果共有を通じた授業改善

## 「個別最適な学び」の充実を目指した実践事例


### 【中学校・第1学年・国語・「あなたの考え聞かせてください～根拠を明確にして意見を述べる～」

#### 育成を目指す資質・能力

- 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、員用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。 [知識及び技能(2) イ]
- 根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 [C読むこと 工]
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとすること。 [学びに向かう力、人間性等]

#### 事例の概要（主な学習活動）

交流をとおして 意見を作る	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 身のまわりの出来事から、共感したり違和感を覚えたりした体験を思い起こす。</li> <li>② ①について、グループで交流し、体験から導き出された自分の意見を1～2文で書き出す。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題の解決に向けて自分たちができることを考えたり、実際に行動を促したりする意見を書くことを伝える。</li> </ul> </li> </ul>
資料を集め、 情報を整理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 学校図書館やICTを活用して、必要な資料を集める。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較や分類、関連付けなどの情報の整理の仕方や出典の示し方について理解し、それらを使うように促す。</li> </ul> </li> </ul>
構想メモを 作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 集めた情報を付箋に整理し、構想メモを作成する。</li> </ul>
意見文を下書き する	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 交流メモをもとに意見文を下書きする。</li> <li>⑥ 下書きを交流し、「わかりやすいか」や「納得できるか」などの視点で助言する。</li> </ul>
意見文を 読み合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 助言を参考にしながら意見文を作成する。</li> <li>⑧ 互いの意見文を読み合い、相互評価する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書き手の考えが伝わるか」「根拠は明確か」について相互評価する。</li> </ul> </li> </ul>

学習の個性化	指導の個別化
<p>興味・関心に応じた学習課題を生徒自身が設定することで、今後の学習が最適となるよう各自で調整させる</p>	<p>支援が必要な生徒には、中学生による新聞の投稿を保管した共有フォルダの活用させるなど、情報を制限することで学習に取り組みやすくなるよう工夫する</p>
<p>資質・能力に応じ、インターネット、新聞、図書等様々な情報収集ができるよう工夫する</p>	<p>支援が必要な生徒には、関連図書の活用等について学校司書の支援を行う</p>
	
<p>「B(A)と判断する状況」の生徒にも、適宜、教師によるフィードバックを行うことで粘り強く学習に取り組ませる</p>	<p>「Bと判断する状況」に該当しない生徒には、共同編集機能を活用したコメントの入力など、教師による支援を重点的に行う</p>

# 1. ④Withコロナでも実施できる効果的な体力向上

日田市立高瀬小学校（児童数193名）

## 体育における一人一台端末の有効的な活用

○「自分の姿を動画撮影する」「示範の動きを視聴する」のような従来の使用方法に加え、一人一台端末を積極的に活用しながら、体力向上、運動への愛好度の向上につながる新しい授業デザインを探る。

### 実践① 第4学年「陸上運動」

ロイロノートで棒人間を描かせたら  
50m走の記録が劇的に伸びました

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

本校の授業支援ツールがロイロノートです。

今日のめあて④  
棒人間を作り、オリンピック選手と自分の違いを調べよう  
(思考・判断・表現)

体育館をダッシュゾーンと撮影ゾーンに分けました。ペアや3人組で自分のランニングフォームを撮らせました。

腿が上がってないなあ

ペアでフォームを撮影

その後、外で行った50m走で記録を伸ばした子(黄色)

記録を伸ばした子(左白一右が黄色・氏名と記録は削除)がこんなにいました。記録がガタ落ちした子は社会体育でのケガ等の理由がありました。

前時までの振り返りや課題をタブレット端末で共有(ロイロノート)

撮影する視点、ルールを確認しより効果的に

自分の動画と保護者向けのコメントを入れ提出、保護者の認めが愛好度アップに

### 実践② 第4学年「水泳運動」

段階	授業の様子	実践内容
導入	今日のめあて④ キックで楽しく「省エネキック」を完成させよう(技能)	○本時のめあて④ キックで楽しく「省エネキック」を完成させよう 子どもたちの学びの履歴から ・キックでがんばると疲れやすく息がもたない。 ・「浮いているだけ」くらいの方が長い距離を足も着かずに泳げている。
補助運動	着替えて集合	プールに移動し ・体操 ・シャワー ・腰掛けキック ・水掛け ・横に泳ぐ プールに行くまでに、端的にわかりやすく伝え、毎回同じルーティンで。
主運動	着替えて戻り	○つけたい力:力を抜いた楽な泳ぎ方を知り、泳げる(知識及び技能) 廊下で伝えられたペア、場所で、お互いの泳ぎを撮影しながら泳ぐ。 撮影の約束:「場所を動かさない」「回しながら録画」「プールサイドの青い場所から」 泳げた距離にネームプレートと上げ、喜ぶ子。 スズコムを複数回使えば履歴に覚ええが。たくさんの笑顔に出会えるようになりました。
振り返り		本時では、自分の動画と一緒に保護者向けのコメントを記入し提出箱に一旦提出。後日保護者からコメント付きで提出箱に戻ってきました。

○本校はプールと体育館が離れており、認知学習をどこで行うか迷ったが、泳力の高まりを

成果:「静止画にポイントを書き込む」「これまでのポイントや振り返りを確認する」「自分の姿を動画で保護者に見てもらおう」等の使い方を通して、体力や愛好度の向上を実感できる授業デザインがなされている。  
課題:単元前半に使い方の指導の時間がある程度かかるため、継続しながら時間短縮を図る等、活動量の確保が必要。

# 1. ⑤ICTを活用した「つながり」の場の確保

## 取組① コロナ禍でも取り組める1人1台端末を活用した「人間関係づくりプログラム」の実践

### (事例1) グループ活動(会話)が少なくとも取組可能な実践例

取組名: 「Who am I」

- 実践方法
- ①教員は生徒の端末に質問(好きな食べ物や趣味等)を送信する。
  - ②生徒は質問に回答し、教員に送信する。
  - ③回答をモニターに映し出し、回答者を推測する。

### (事例2) グループごとに(密を避けるため)教室を分けて取組可能な実践例

取組名: 「動物マンション」

- 実践方法
- ①教員は生徒にマンションに住む動物の情報を送信する。
  - ②生徒はマンションのどの部屋に何の動物が住んでいるかをグループで話し合う。
  - ③グループで協力してマンションの図を完成させる。

### (事例3) 地域児童生徒支援コーディネーターによる実践事例の情報共有

- 実践方法
- ①地域児童生徒支援コーディネーターは、コロナ禍でも実践できる取組や児童生徒が楽しく取組める方法を自校及び連携校の教員へ情報共有。
  - ②各クラスにおいて、コロナ禍でも短時間で継続的に取組める内容を実践する。



人間関係づくりプログラムの様子



地域児童生徒支援コーディネーターによる研修

### <学校現場から出された意見>

- ・感染予防からペアワークが難しいなか、共通の課題に取り組むことができ、**クラスの一体感が醸成**された。
- ・直接コミュニケーションを取ることが苦手な子どもでも、端末を使用することでスムーズなコミュニケーションが可能になった。
- ・コロナ禍で学校行事等が中止になるなかで、児童生徒の**友だち作りのきっかけ**になった側面もあった。



### 「人間関係づくりプログラム」とは

あるテーマに基づいて、ペアやグループでお互いの考えや意見を出し合う活動のこと。継続的に実施することで、他者理解や自己理解を促し、学校内や学級内の良好な人間関係の構築につながる取組。

### <その他の実践事例>

県教委では、校種別の冊子や実践モデル校での事例集等でプログラムの内容(実践事例)や留意点等をお知らせしています。



校種別人間関係づくりプログラム冊子



人間関係づくりプログラム実践ガイド

教職員研修申込システム(YELL)でも実践先進校の取組を紹介しています。





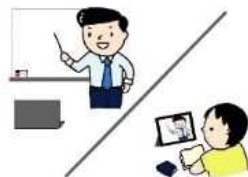
# 1. ⑤ICTを活用した「つながり」の場の確保

## 取組② 不登校児童生徒のためのICTを活用した授業等の配信

不登校児童生徒、保護者からのニーズ(要望)に応じて、在籍クラスの授業や学校生活の様子等のオンライン配信等を実施

### <配信内容>

- ・在籍クラスの授業風景
- ・ホームルームの様子(朝の会、帰りの会)
- ・学校生活の様子(給食、掃除等)
- ・学校行事の様子(講演会、クラスマッチ等)



### <配信視聴場所>

児童生徒の状況に応じて、視聴場所を工夫すると効果的

- ・自宅から出られない児童生徒の場合  
→自宅と学校(教室)をつないで授業配信
- ・学校までは来れるが教室に入れない児童生徒の場合  
→学校内の別室と教室をつないで授業配信

### <配信種類>

種類	内容	長所	短所
ライブ授業配信型	授業等の様子のみを一方方向で配信	Zoom等のアプリを活用すれば手軽に配信可能 等	児童生徒の様子を把握しにくい 等
同時双方向型	児童生徒がオンラインで授業等に参加	児童生徒の学習状況等を把握できる 等	児童生徒に抵抗感がある場合がある 等
録画視聴型	あらかじめ録画した授業を編集した上で配信	児童生徒が好きな時間に何度でも視聴可能 等	教員の編集作業等が負担 等

どの種類にも長所・短所がありますが、まずはやってみることが大切です。

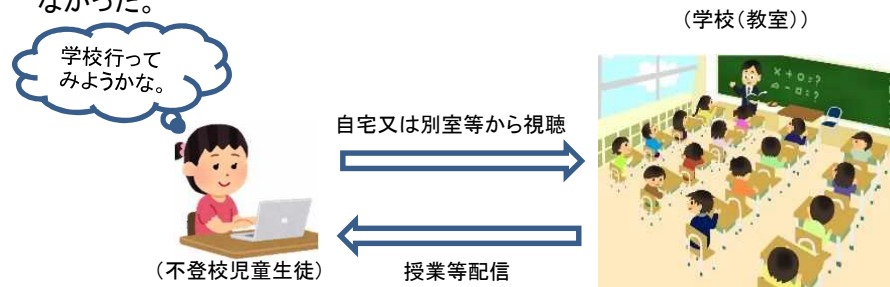


### <実施にあたっての注意点>

- ・カメラの位置によっては、児童生徒が黒板の字が見えづらい。
- ・マイクを付けて配信する場合、マイクに雑音等も入るため、教員の声が聞き取りにくい。
- ・授業の途中で通信が繋がらないトラブル等が発生することがある。
- ・校内にネット環境が整備されていない教室がある。(理科室、美術室等)
- ・児童生徒の家庭がネット環境が整備されていない可能性がある。 等

### <成果>

- ・不登校生徒は、夜型の生活を送っていたが、ホームルームの配信がきっかけとなり、生活リズムが整った。
- ・授業のオンライン配信を視聴することで、在籍クラスの状況が分かり、学校とのつながりを継続することができた。
- ・オンライン配信を視聴したことで、登校意欲がわき、学校復帰につながった。



### <課題>

- ・配信するためのICT機器の不足及び通信環境の改善
- ・生徒により学習の定着状況が異なるため、一斉配信では個に応じた対応が難しい。
- ・対応する教員のICT機器のスキル向上

# 1. ⑥会議・研修の整理・精選(「リアル」×「デジタル」の最適な組合せ)

## 集合型とオンライン型のベストミックスによる新たな研修の構築・実施

～集合型研修、オンライン研修または両者の利点を合わせたブレンド型研修～

### 集合型研修<ブレンド型含む>

- ・スキルの取得、事例研究、ロールプレイング、ディスカッション、実地研修等、実践力や応用力を身に付けるための研修などについて有効

- 講師の熱意や魅力が直接的に伝わることで意欲喚起や研鑽につながる
- 講師が研究協議中に、発言や記述を見ながら、助言を行ったり講義の内容の重点を変えたりできる
- 同じ空間を共有することで、受講者間で切磋琢磨したり、啓発しあったりすることができる

### オンライン研修<動画視聴・遠隔講義・ハイフレックス(選択型)>

- ・知識の習得・伝達に係る内容について実施
- ・グループ討議のテーマが焦点化した協議や会場を分割して実施する研修等に有効

- 移動に伴う受講者(講師)の負担が軽減され、費用(時間)対効果が高まる
- チャットやブレイクアウトルーム等の機能を活用して、個別に質問等が可能
- 受講者と講師の研修場所に制約がない●受講者同士のコミュニケーションが取りにくい

## オンラインによる新しい研修の形

### 動画視聴(非集合型)

- ・学校等において、事前に空き時間等にオンデマンド視聴が可能
- ・事後アンケート提出
- ・集合型研修を削減
- ・R3年度は63本の事前動画視聴



### 遠隔講義(非集合型)

- ・各学校の受講者に遠隔システムで講義
- ・働き方改革の観点から、効率的な研修(時間・費用)実施
- ・子どもと向き合う時間の創出
- ・R3年度は119研修で実施



### ブレンド型

- ・集合型研修において、外部講師のオンラインによる講義受講
- ・事前の動画視聴で研修時間を削減  
2日⇒1日、1日⇒半日 へ変更増
- ・コロナ禍で、講師が感染拡大地域でも可能



### ハイフレックス(選択型)

- ・集合か遠隔講義を受講者が選択
- ・通信環境等により遠隔配信を集合で受講選択可
- ・感染拡大防止対策としての新たな協議方法の創出





## 2. 「当たり前」の見直しや目的・ねらいの再検討 による働き方改革の加速

## 2. ①学校行事の整理・明確化

### 学校行事等の整理・明確化

○会議や各種行事等の業務仕分けの際に、措置の視点を明確にして、その可否について算定した全体効果（時間）をふまえて吟味する。

#### ☆措置(視点)を明確にした吟味(国東市立安岐小学校)

##### 《措置の視点》

- ①やめる…廃止
- ②へらす…統合、結合、選別、回数、頻度、時間・期間、種類、規模、抽出
- ③かえる…順序、手順、方法、場所、分担、時期、意識
- ④簡単にする…省略、簡素化、単純化、効率化、省力化
- ⑤それ以外のアイデア

##### 業務仕分けの例

検討対象	措置	説明等	全体効果(時間)	算定結果(分×人×回数)	算定結果
職員暮会	③効率化	暮会は「気になる子どもの共有」のみとし、連絡事項は Te-Comp@ss の掲示板を利用する。職員は、各自で掲示板を確認し、不明な点は担当者に尋ねる。	280	16:00~16:15 30*16*35 文面だけでは伝わりにくいものもあるので提案も必要(職員会議にて)。気になる子の共有に10分。	◎
職員会議	②へらす ③かえる	発言や質問に対する答えを必要最小限にしてほしい。1聞かれて2や3で返さない。	48	15:00~16:30 15*16*12	○
会議等	③かえる	遅れる場合は事前連絡をすることを徹底し定刻開始を守る。放課後の時間は限られているので本当に守ってもらいたい。			◎
プロジェクト会議	④簡単に	年度初めにすること、毎月のPJ会議であることを残しておく。特に年度初めは担当が変わるので必要。	42	45分間 15*14*12	◎
プロジェクト会議	③かえる	メンバーに低・中・高が必ず入るようにする。学年部会の中で話し合いができるため、職員会議で再確認することが減る。また学年			○ △

検討した結果(◎○△×)をもとに実施していく

《期待される効果》  
○視点を明確にすることによる業務の客観的な精査  
○全職員による業務改善に対する意識改革

### セルフマネジメントを高める目標設定

○時間外在校時間の目標値設定を、短期で各教職員が見つめ直すことのできる達成指標として設定することにより、当事者意識の高い働き方改革につなぐ。

#### ☆達成指標の工夫例(別府市立鶴見台中学校)

「超勤時間を週当たり9時間以内にする」  
(月火木金各2時間、水1時間)

【働き方改革の推進】	校務の効率化	校務	家庭	地域	教職
	○会議の効率化 ○教職による通勤時刻の把握	○会議の効率化 ○教職による通勤時刻の把握	○学校運営協議会で話題となった「家庭における取組」に協力する	○学校は、学校運営協議会で話題になったことを学校通信で知らせ、保護者に協力を呼びかける	○学校は、学校運営協議会で話題になったことを学校通信で知らせ、保護者に協力を呼びかける
	○超勤時間を週当たり9時間(月火木金各2時間、水1時間)以内にする			○学校運営協議会で、現状や学校の取組について年1回取り上げ、縮減できる業務や協力できる業務について、「地域」や「保護者」の視点を加えて熟議をする	

#### ◇実践の特徴

- ・法令等を根拠に週当たりの目標時間を設定。
- ・週当たりのスパンにすることで、時間外在校時間を週9時間に収めるためにどうすれば良いかを各教職員が考えやすい。
- ・タイムマネジメントを自分事としてとらえ、見通しを持った業務の推進につなげている。

#### 《期待される効果》

- 勤務時間を意識した取組推進の充実
- 時間外在校時間の減少

### その他参考となる取組

#### ○意識改革を促すキーワード(合い言葉)の共有

- ・「まじめに無理をしない」「段取りズム」…

#### ○自己申告制月2回の定時退庁日設定

- ・全体での週1回の定時退庁日に加え、各教職員が月2回定時退庁日を設定することで、各自の見通しをもった業務推進を活性化。

#### ○スクールサポートスタッフ(SSS)活用の工夫

- ・SSSが、校内の各教室をまわり、直接先生方と話しながら、対応可能な業務を共有・支援。そうすることで、校内全体の連携が図られ、どの学級にも支援が行き渡る体制が整えられる。

## 2. ②地域の力の結集

### 宇佐市立宇佐中学校（生徒数102名）

■「学校における働き方改革と子供、家庭、地域社会」（中央教育審議会答申H31.1.31）  
学校における働き方改革を進めるに当たっては、「社会に開かれた教育課程」の理念も踏まえ、家庭や地域とともに子供を育てていくという視点に立ち、地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等とともに、地域全体で子どもたちの成長を支え、学校内外を通じた子供の生活の充実や活性化を図ることが大切である。

「まちづくり協議会」の委員が「学校運営協議会」の委員として参画し、「熟議」を通して、学校・家庭・地域の役割分担を明確にした働き方改革を推進している事例

#### 取組内容



学校運営協議会において「学校評価の4点セット」を基に、**教職員の働き方改革**について協議



**コロナ対策消毒  
宇佐中サポート  
スタッフ結成！**



消毒作業を実施するも学校運営協議会委員だけでは、**作業が大変という課題**も



**地域に呼びかけ  
宇佐中サポート  
スタッフ増員！！**



地域からのボランティアも加わり、**週4回の頻度**で消毒作業を実施



**今後は消毒作業を  
近隣小学校にも  
拡充！！！！**

■地域の声  
・消毒作業を  
実際にしてみて、  
先生方のご苦  
労が改めてわ  
かりました。

■教職員の声  
・生徒と関わる  
時間が増えて、  
ありがたい。  
授業準備がで  
き、生徒の授業  
満足度がアップ  
しました。



## 2. ②地域の力の結集

- 取組① 地域学校協働活動推進員を中心とする取組の推進  
 取組② 地域の特色を活かした多様な学校支援活動

別府市立中部中学校（生徒数 466名）

### 【連携・分担による学校マネジメントの実現】

中部中学校に必要とされる意識

○地域との連携による人材活用

地域住民に必要とされる意識

○学校の課題解決を支援 ○地域全体で子どもの成長を支援

### 学校運営協議会での熟議を踏まえた様々な活動を展開

#### <別府市立中部中学校の取組体制>

学校運営協議会

熟議



協働

#### 地域学校協働活動推進員の参画

中部子ども応援プロジェクト  
 (「協育」ネットワーク)との協働

#### 学びの居場所づくり

- ・登校支援ルームの生徒への支援
- ・キャリア教育支援
- ・職業講話・あいさつ運動・マナー検定
- ・環境整備
- ・学校周辺の清掃活動・学校園整備

#### 取組① 地域学校協働活動推進員を中心とする取組の推進

##### (学びの居場所づくり)

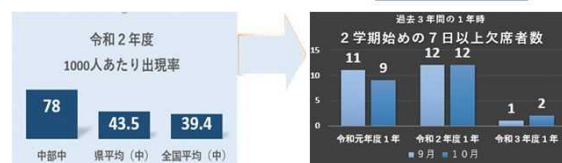
- 地域の力（高齢者・成人学生・保護者等）で登校支援ルームを整備
- 地域の支援で不登校生の見守りを実施

新設した登校支援ルーム



地域の方の見守り

#### 【成果】



○7日以上欠席者数は減少

#### 取組② 地域の特色を活かした学校支援活動 (キャリア教育支援・環境整備)



イラストレーターによる講話



建築士によるグループワーク



アフリカンサファリ  
 神田園長による講演



地域住民による清掃活動

#### 【具体的成果】

- ◇教職員と推進員・コーディネーター・地域住民の連携体制の強化や信頼関係の構築
- ◇学校課題に応じた様々な活動を地域と連携・協働のもと実施
- ◇不登校生徒の減少

働き方改革  
 教師の負担減



## 2. ②地域の力の結集

### 【極小規模校における「目標協働達成」】

- ◆教育目標 「小田の歴史と伝統に学び、新しいことに挑戦する小田っ子の育成」
- ◆育成を目指す資質・能力 「主体的に考え行動する力」「他者と協力する力」

玖珠町立小田小学校 (児童数12名)

#### 概要

- 極小規模校において自然体験活動を進めていくには人的支援が必要不可欠。そこで学校運営協議会において自然体験活動の年間計画を協議し、「アサギマダラを呼ぼうプロジェクト」を設定。
- 学校・家庭・地域で共有した学校の教育目標達成に向かう新たな取組により、児童の資質・能力が育成。
- 役割の明確化により教員の負担が軽減。子どもと向き合う時間の確保へと繋がる。

#### 背景

自然体験活動→事前準備等の負担が大きく新たな取組を設定しにくい→前例踏襲

#### 解決方法

- 学校運営協議会(CS)活用
  - ・学校の教育目標、目指す子ども像の共有(目標協働達成)
  - 「こんな小田の子どもたちを育てたい」
- ・地域教材の見直し→自然体験活動年間計画の協議
- ・プロジェクト「アサギマダラを小田に呼ぼう」を設定



**アサギマダラ**  
長距離を移動する大型の蝶。  
玖珠町には秋頃に飛来。

#### 取組

- ①フジバカマの苗植え  
プロジェクト提案者(地域在住の県認定グリーンインストラクター)やCS委員、保護者、老人会と共に「フジバカマ」(アサギマダラが吸蜜する植物)の苗植えを全校児童で実施



時期	取組内容(参考)	取組詳細(参考)	学年等	授業	担当
4月	中旬 花壇整備	○フジバカマ花壇の整備(プール横花壇) ーアサギマダラの飛来	全校	生活・総合・理科	環境教育主
	中旬 緑のカーテン設置	校舎南側に設置・ゴーヤ	4年	理科・総合	担当学年担
	中旬 野菜栽培(1・2年)	学校の畑で、オクラ・ミニトマト・ひまわり等の栽培	1・2年	生活	担当学年担
	中旬 野菜栽培(3・4年)	学校の畑で、オクラ・ミニトマト・きゅうり等の栽培	3・4年	理科・総合	担当学年担
5月	中旬 野菜栽培(5・6年)	学校の畑で、オクラ・ミニトマト・きゅうり等の栽培	5・6年	理科・総合	担当学年担
	中旬 さつまいも				

#### 成果



- ②草刈り  
草刈りはPTA清掃として保護者と老人会が共同で実施

- ③アサギマダラと記念撮影  
飛来した「アサギマダラ」を持ったプロジェクト発起人と記念撮影した小田小児童。  
児童の多くは「新しいことに挑戦してみて、本当にアサギマダラが飛んできてくれてよかった」と達成感を得ることができた。

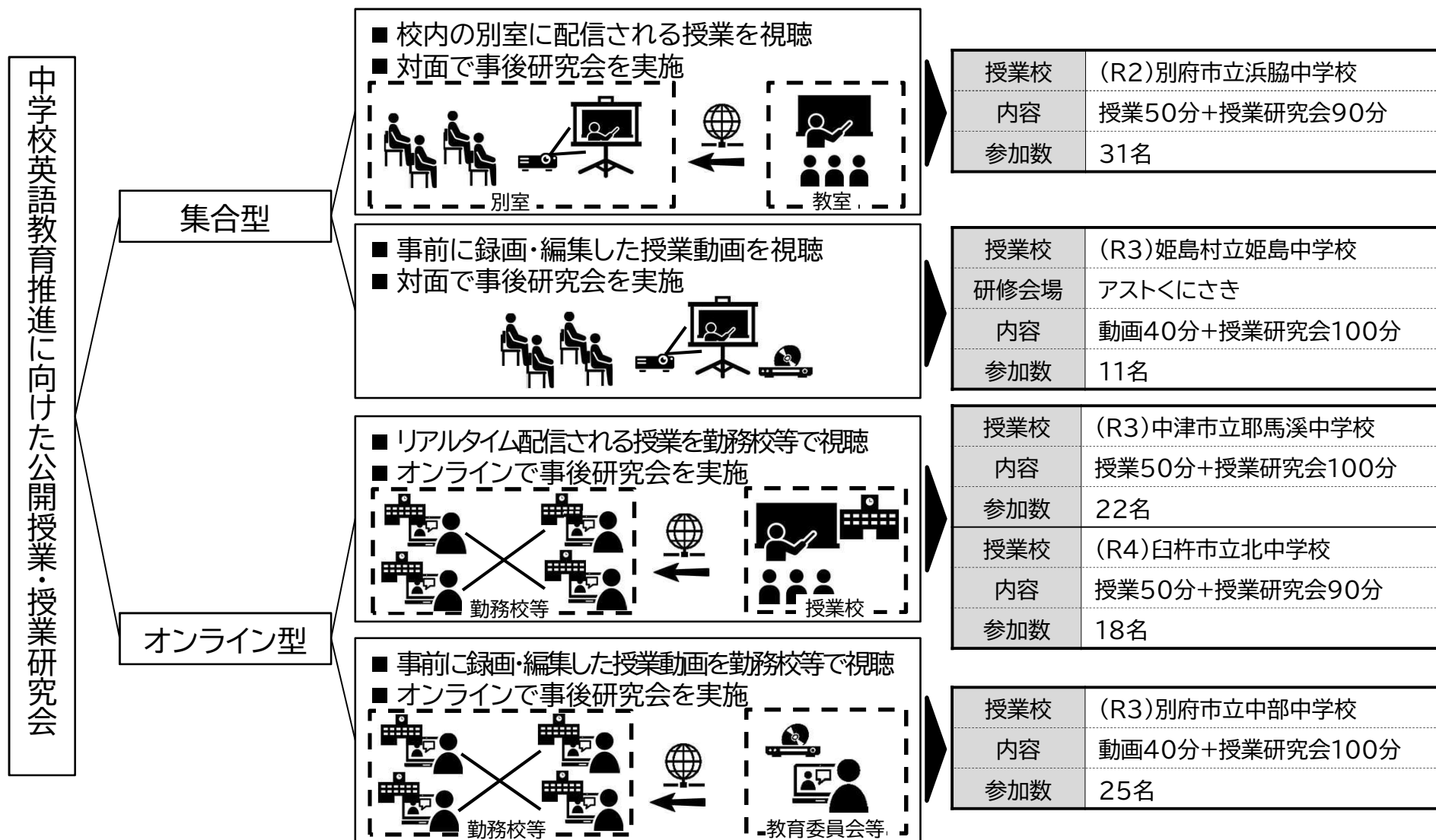


発起人も児童たちの喜ぶ姿に充実感を得る

【学校】児童が達成感を感じられる取組。CSの活用により職員の負担が軽減される。  
【家庭・地域】取組のゴールが明確。「小田小の子どものため」と目標協働達成の意識向上につながる。



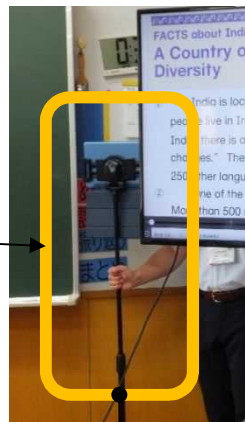
## 2. ③公開授業・合同研究授業等のオンライン化



- 参加者アンケートの結果、どの方式でも理解度・充実度に関する評価が高く(平均3.8/4点満点)、効果的な研修となっている。
- オンライン型で実施しても、効果的な研修ができるとともに、移動時間がかからず、教員の働き方に配慮することができる。
- オンライン型で実施すると、遠くの学校の授業公開にも参加しやすく、子どもと向き合う時間の確保につながる。

# オンライン型リアルタイム配信(臼杵市立北中学校)

## 公開授業



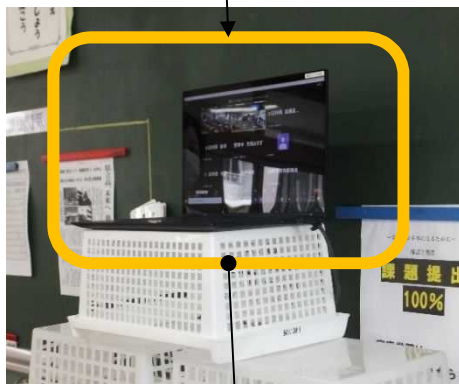
教室後方

【カメラ①(iPad)】  
担当者が端末を持って移動しながら、主に生徒の学習の様子を配信

【カメラ②(iPad)】  
教室前方に固定し、主に生徒の学習の様子を配信



【集音マイク】  
音声を拾いやすくするために、カメラ③と接続して教室後方に設置

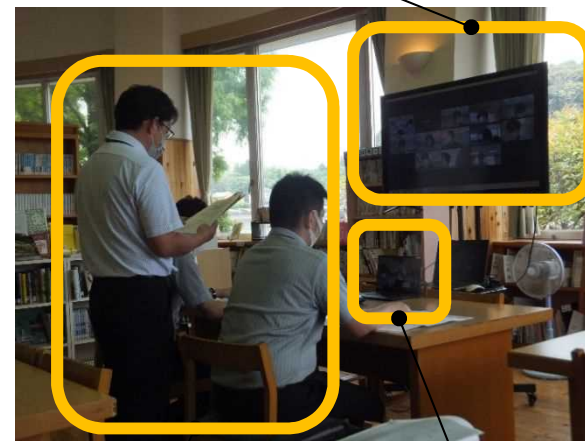


【カメラ③(PC)】  
教室後方に固定し、主に教師が指導する様子を配信

参加者は、任意でカメラ①～③の映像を選び、集音マイクの音声を聞きながら公開授業をオンラインで視聴する。

## 授業研究会

【モニタ】  
各学校の参加者の様子を映し出す



左 : 司会者  
中(奥) : 指導助言者  
右 : 授業者

【カメラ】(PC)  
授業者や指導助言者等と参加者が双方向で協議

## 2. ④会議・研修の整理・精選(「リアル」×「デジタル」の最適な組合せ)

再掲

### 集合型とオンライン型のベストミックスによる新たな研修の構築・実施 ～集合型研修、オンライン研修または両者の利点を合わせたブレンド型研修～

#### 集合型研修<ブレンド型含む>

- ・スキルの取得、事例研究、ロールプレイング、ディスカッション、実地研修等、実践力や応用力を身に付けるための研修などについて有効

- 講師の熱意や魅力が直接的に伝わることで意欲喚起や研鑽につながる
- 講師が研究協議中に、発言や記述を見ながら、助言を行ったり講義の内容の重点を変えたりできる
- 同じ空間を共有することで、受講者間で切磋琢磨したり、啓発しあったりすることができる

#### オンライン研修<動画視聴・遠隔講義・ハイフレックス(選択型)>

- ・知識の習得・伝達に係る内容について実施
- ・グループ討議のテーマが焦点化した協議や会場を分割して実施する研修等に有効

- 移動に伴う受講者(講師)の負担が軽減され、費用(時間)対効果が高まる
- チャットやブレイクアウトルーム等の機能を活用して、個別に質問等が可能
- 受講者と講師の研修場所に制約がない●受講者同士のコミュニケーションが取りにくい

### オンラインによる新しい研修の形

#### 動画視聴(非集合型)

- ・学校等において、事前に空き時間等にオンデマンド視聴が可能
- ・事後アンケート提出
- ・集合型研修を削減
- ・R3年度は63本の事前動画視聴



#### 遠隔講義(非集合型)

- ・各学校の受講者に遠隔システムで講義
- ・働き方改革の観点から、効率的な研修(時間・費用)実施
- ・子どもと向き合う時間の創出
- ・R3年度は119研修で実施



#### ブレンド型

- ・集合型研修において、外部講師のオンラインによる講義受講
- ・事前の動画視聴で研修時間を削減  
2日⇒1日、1日⇒半日 へ変更増
- ・コロナ禍で、講師が感染拡大地域でも可能



#### ハイフレックス(選択型)

- ・集合か遠隔講義を受講者が選択
- ・通信環境等により遠隔配信を集合で受講選択可
- ・感染拡大防止対策としての新たな協議方法の創出



## 2. ⑤各種システムを活用した業務効率化

### 「OENシステム」～いつでも どこでも どんな端末でも(スマホ等)でも利用可能!～

#### <OENシステムの特徴>

- **いつでも**  
インターネットさえつながれば、時間を選ばず利用できます。
- **どこでも**  
学校や自宅、外出先でも利用できます。
- **どんな端末でも**  
パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレット端末でも利用できます。

※ファイル等の保存容量は無制限

#### <OENシステムの主な4機能>



### 1. メール機能

#### <メール機能の特徴>

- 各所属には、2つのメールアドレスがあります。
  - ・「a所属コード(5桁の数字)@oen.ed.jp」(代表メール)  
→担当者のみが活用(例えば、教頭や教務主任等)
  - ・「所属コード(5桁の数字)@oen.ed.jp」(グループメール)  
→このアドレスに送信すると所属職員 全員へ一斉配信されます。

#### <活用事例>

- 所属職員全員にメールを一斉配信  
→例えば、緊急時の連絡等は、自宅や出張先からでも確認することができます。
- 大分県内の〇〇部会のメンバーにメールを一斉配信  
→「連絡先」を使って、複数人をグループ登録するとアドレス入力は1回ですみます。

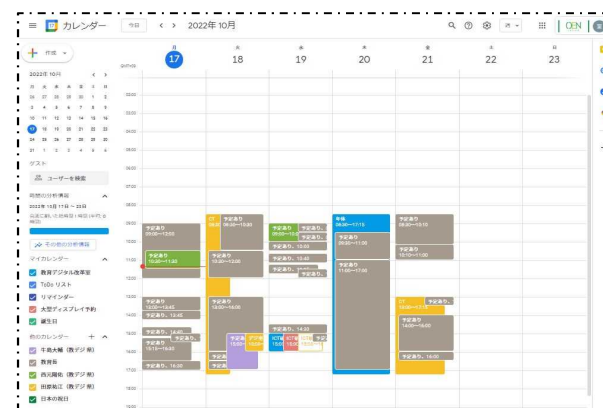
### 2. カレンダー機能

#### <OENカレンダーの特徴>

- カレンダーを共有すると他者の空き時間を確認することができます。
- 通知機能で予定の5分前(設定変更可)にパソコンやスマートフォンに通知することが可能です。

#### <活用事例>

- 上司や同僚のスケジュールを確認し、会議や行事等を計画。
- 自身の年間のスケジュール管理が可能。
- 学校行事等を全職員で共有可能。





### 3. フォーム機能

**集計作業がいらないので、「時間短縮、ペーパーレス化」につながります！！**

#### <Googleフォームの特徴>

- パソコンやスマートフォン等のインターネットにつながる機器からアンケートに回答できます。
- 自動で、回答内容がExcel形式で一覧化され、簡単なグラフも作成されます。  
集計作業に時間を取られないので、アンケート結果の分析等に十分な時間をかけることができます。
- 小テスト等も作成でき、教員は解答の傾向を視覚的に確認でき、児童生徒も自分の画面で即時に結果を確認することができます。

#### <活用事例> 運動会終了後の保護者アンケート

令和4年度 ○○小 大運動会アンケート

kyoudigi@oen.ed.jp (共有なし) アカウントを切り替える

\*必須

学年を選択してください\*

選択

時期は適切でしたか? \*

適切

適切でない

どちらともいえない

「適切でない」と答えた方、いつ頃がよいと思いますか? \*

5月

6月

7月

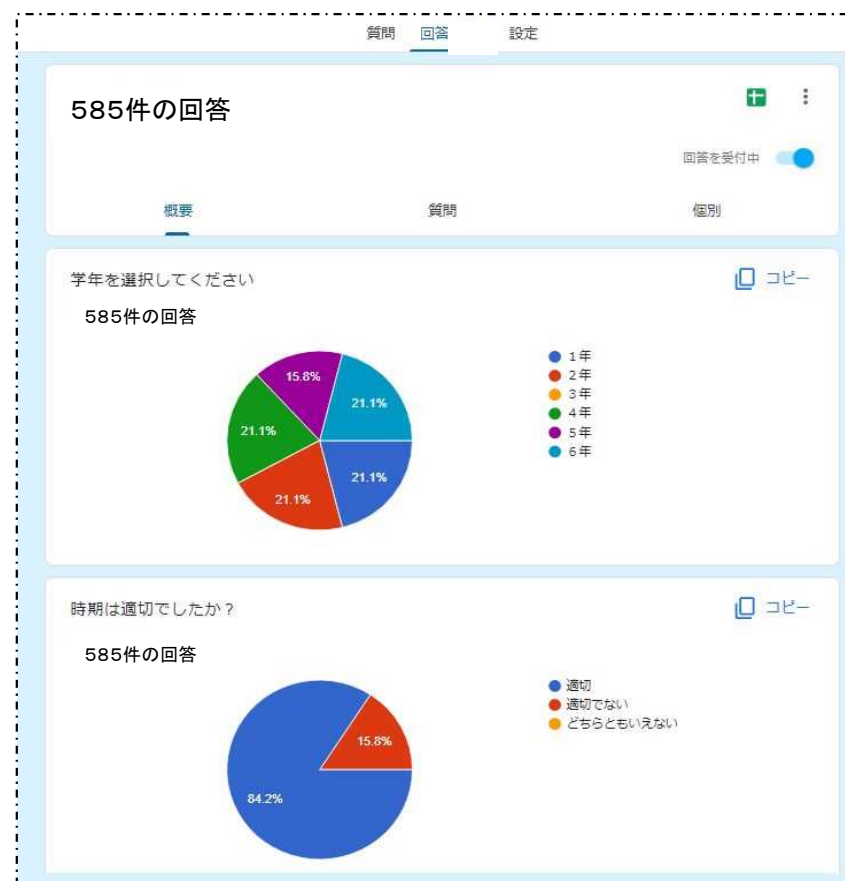
9月

11月

その他: \_\_\_\_\_



- (例)
- 585件のアンケートを自動的に集計しグラフ化します。
  - アンケートの作成は、システム内の形式に打ち込むだけなので簡単です。
  - 保護者は、スマホや家庭内のパソコン、タブレットから回答するので、回収の時間もかかりません。



#### <その他の活用事例>

- 授業中の小テスト（自動採点、自動集計、解答状況の把握等）
- 児童生徒の意識調査（自動集計、回答状況の把握等）
- 行事後の教員アンケート（自動集計、職場のペーパーレス化等）



**過去に作成したものをコピーして加工すれば、作成にかかる時間も短縮できます。**



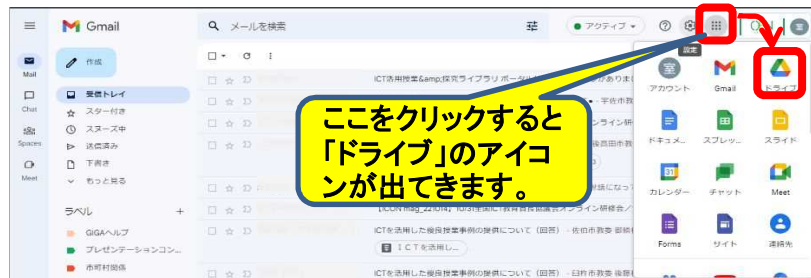
## 4. ドライブ機能

**USBメモリの替わりとして使用でき、しかも紛失の心配がありません！！**

### <OENドライブの特徴>

- ドライブとは、データを記録したり、記録してあるものを呼び出したりするクラウドのことです。
- ドライブに保存されたファイルは、共有をすることで自分以外の人にも閲覧・編集することができます。
- 共有できるのはOENを利用できる人のみ。そのため、誤って外部の人と共有してしまう事故を防ぐことができます。

### <活用事例> 職員朝礼での伝達事項をドライブで全職員が共有（県立高校の取組）



- 職員朝礼での伝達事項は、ドライブ内に保存している様式（右図）に各自が記入していく。右図の様式は、1年間分保存されている。
- 職員朝礼の際は、教職員はドライブ内の様式（右図）を開き、その日の日程、会議や予告等を確認する。
- 伝達事項がある職員は、いつでも、どこからでも、どんな端末からでも、記入することができる。
- ドライブを活用した職員朝礼を行うことにより、時間短縮につながっている。

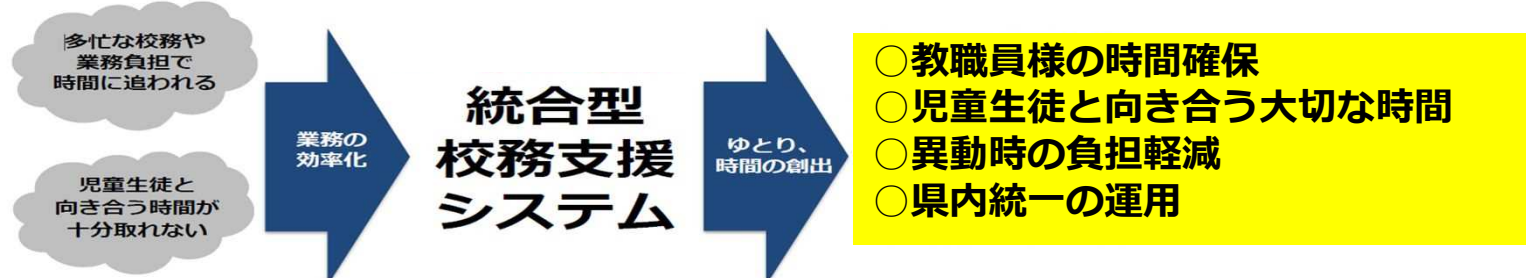
### <その他の活用事例>

- 教材等の保存  
→作成した教材等は、ドライブに保存すれば、職場が変わり、使う端末が変わっても、使用可能。
- 共同編集  
→複数人で一つのファイルを同時に編集することができる。（例えば、スプレッドシート、ドキュメント等）

R4_10_朝礼伝達事項 .XLSX			
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール ヘルプ			
共有			
1	10月4日	火	
2			
3			
4			伝達事項
5	日程	全校朝礼(体育館)	連絡者 田中
6			
7			
8			
9			
10	会議	11時～ 運営委員会	小野
11		15時30分～ ICT推進委員会	牛島
12			
13			
14			
15			
16	予告	10月14日 生徒会立会演説会を行うので、立候補者を確認すること。	長谷川
17			
18			
19			
20			
21			
22	先生方へ	10月5日 ICT研修でTeamsを使います。iPadでTeamsにサインインした状態にしてください。	牛島
23			
24			
25			
26			
27			
28	生徒へ	10月7～9日 iPadのOSアップデートを行うので写真の整理をして空き容量を確保すること	牛島
29			
30			
31			
32			
33			
34	部活動	中間審査前のため部活動休止(～10月6日まで)	小野
35			
36			
37			

## 2. ⑤各種システムを活用した業務効率化

### 学校現場の業務改善につながる「統合型校務支援システム」の主な機能



#### 学籍情報管理



- ・児童生徒の「名簿」を管理
- ・過去年度の蓄積情報確認
- ・〇年間のデータを蓄積
- ・兄弟関係・保護者情報を管理
- ・日々の出来事管理
- ・登録情報の出力・作成 等

児童生徒情報を一元管理

→統合型校務支援システムを中核を担う機能

#### 出欠席管理



- ・出席簿をデジタル作成
- ・出欠席データの分析
- ・出欠席データの集計
- ・関連帳票への連動 等

日々の出欠席を登録

→二重登録・管理する負担を軽減する機能

#### 成績機能

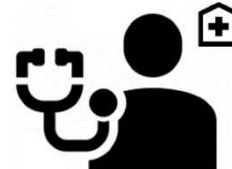


- ・成績管理・処理
- ・個人カルテ
- ・通知表、指導要録、調査書連動
- ・一覧表をはじめとした成績帳票作成
- ・データ分析・分布確認
- ・登録情報の出力・作成

成績処理（素点の登録）を実施

→成績一覧表、通知表、指導要録、調査書等と連動

#### 保健機能



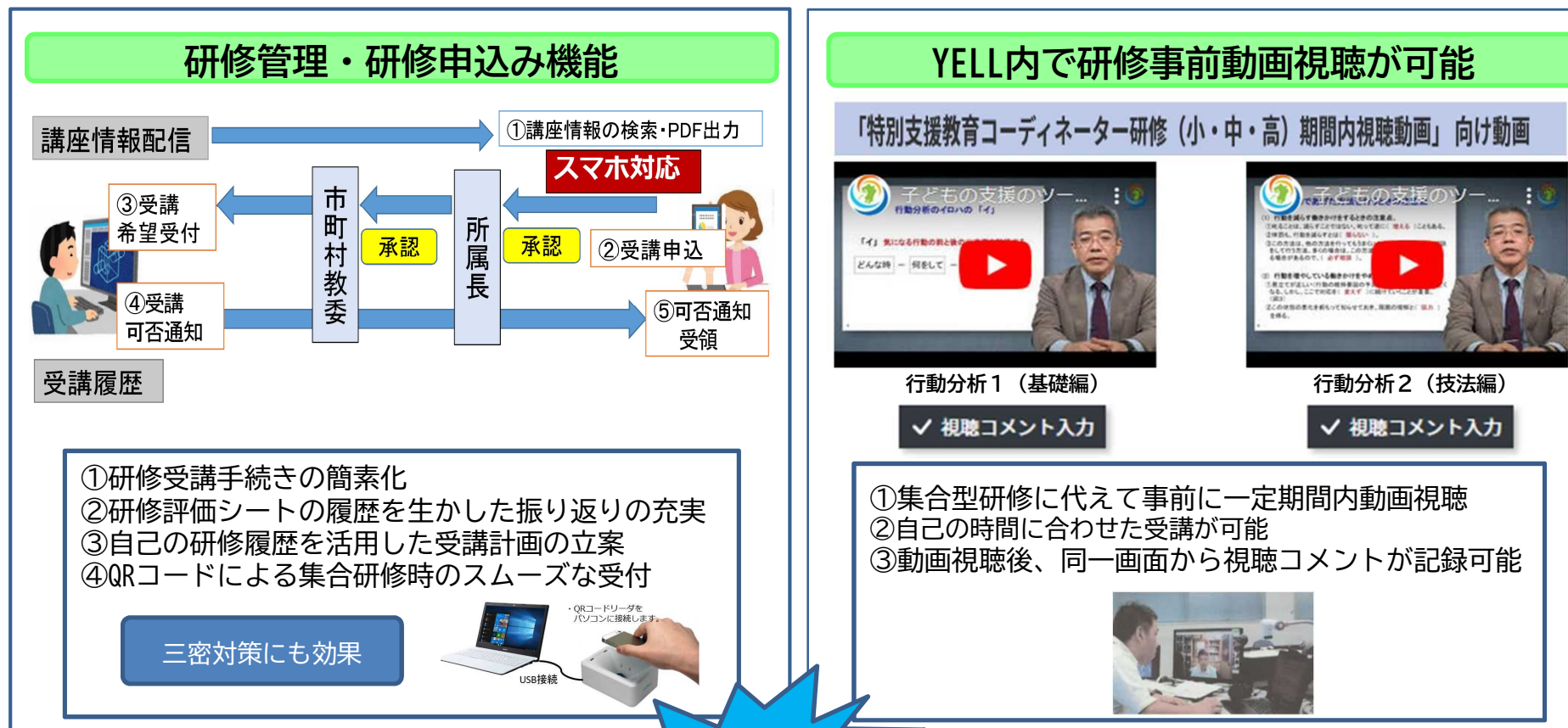
- ・健康診断の記録を管理
- ・保健日誌作成
- ・保健室への来室記録管理
- ・転出入時の登録データ引継ぎ
- ・出欠席の記録データ連携
- ・登録データの集計・分析等

数年間（3～9年間）の保健データを蓄積

→転出入時におけるデータを引継ぎ、次の学校で確認可能な出欠席を登録

## 2. ⑤各種システムを活用した業務効率化

### 「教職員支援システムYELL」～研修受講申込から受講修了まで一元管理による業務効率化～



#### ■「教職員支援システムYELL」導入成果

- ・事前視聴動画の導入に伴う研修時間の短縮
- ・研修履歴の共有化（OJTの推進）
- ・「紙作業」から「システム作業」によるICT活用意識の浸透

#### ■オンラインによる新しい研修の導入成果

- ・移動に伴う受講者の負担軽減、費用（時間）対効果増大
- ・場所、時間の制約がないため、研修機会や受講者数の拡大
- ・チャット機能等を活用した個別質問等による研修の深まり

# 子どもと向き合う時間の確保